

# News Letter

■2010年4月20日発行 ■発行/三重大学高等教育創造開発センター



## 教育開発のガイド No.5

### ラーニング・コモンズ | Learning Commons

#### 背景とポイント

近年の大学教育改革の主要な課題のひとつに、「単位制度の実質化」があります。その主な取り組みは、1単位あたり45時間相当の教室内外の学修の実質化を目指すことです。総務省の調査（2006年）によれば、日本の大学生の学内外の学習時間（土日を含む一日あたりの平均）は3時間30分です。国際的な比較からも、日本の大学生の学習時間は短いと指摘されています。このうち、特に問題なのは授業時間外（教室外）の学習時間が確保されていないことです。

授業時間外の学習時間を確保するために、次の対応が考えられます。

- シラバスで予習や復習の指示を与える。
- セメスター制、キャップ制やGPA(NewsLetter No.7,8参照)を導入する。
- 授業時間外学習を前提として授業を運営する。
- 教室外の学習環境を整備する。



近年、多くの場合、大学図書館に設置されるようになったラーニング・コモンズは、学生の教室外の学習を支援する場としての役割が期待されています。

#### ラーニング・コモンズとは

ラーニング・コモンズは、学生による知識の創造を支援する場です。その前身であるインフォメーション・コモンズの構成要素である施設・設備 (space)、資料・情報 (stock)、スタッフ (staff) に、大学内における多様な学習支援機能や活動を含めた場であると言われてい

ます。インフォメーション・コモンズは、デジタル時代に対応した学習の場として、大学図書館に設置されました。コモンズは共有地という意味です。大学図書館における電子情報資源、マルチメディア、印刷資源、各種のサービスへの統合的なアクセスを学生に提供する場として設置されたのが始まりです。

学習理論が、利用者への「知識の伝達」よりも、コモンズのスタッフと利用者による「知識の創造」「自主的な学習」を目指すものに移行したことを反映して、インフォメーション・コモンズがラーニング・コモンズに移行しました。

#### ラーニング・コモンズを導入した大学の例

お茶の水女子大学  
国際基督教大学  
大阪大学  
名古屋大学  
東京女子大学  
成蹊大学



三重大学

2010年4月にオープン  
共通教育棟3号館1階

#### ラーニング・コモンズの構成要素\*

##### 施設・設備 (space)

- 共同学習のスペース**：4～12名の利用者を想定した多様な学習スペース、プロジェクトとホワイトボード、囲いのあるスペースと開かれたスペース、LAN環境、可動式の家具など
- コンピュータ演習室**：教室としての利用など
- ミーティング、セミナー、文化イベント等のためのスペース**：アイデアの交換、相互交流など
- カフェとラウンジ・エリア**：飲食ができること、快適で座り心地のよい椅子など

##### 資料・情報 (stock)

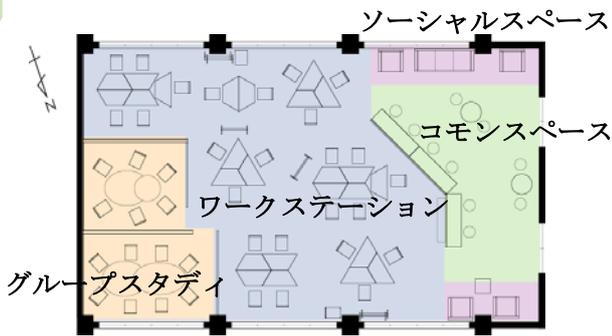
- コンピュータ+ワークステーション**：資料を広げる十分なスペースのある配置

##### スタッフ (staff)

- サービス・デスク**：レファレンス調査、コンピュータやソフトウェアの操作の補助など
- マルチメディアを用いたプレゼンテーションのための支援センター**：画像や音響の編集システム、大判ポスターの印刷機など
- 教員のためのテクノロジーの支援センター**：ソフトウェアの操作の補助、テクノロジーを用いた授業デザインや授業運営の支援など
- 学習・学生支援カウンター**：ライティング・センター、学生支援センターなど

\*米国の調査にもとづく[<http://faculty.rwu.edu/smcullen/>]

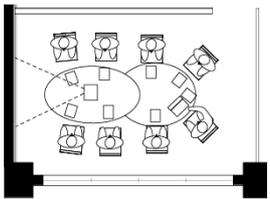
### 三重大学のラーニング・ commonsのフロア構成



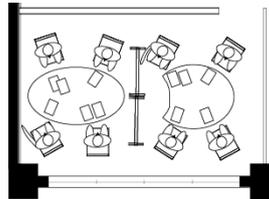
#### グループスタディ

- 口頭発表またはその練習をすることができます。
- 壁にはホワイトボードを設置しています。

ホワイトボードは、プロジェクターを映すスクリーンとしての役割も果たします。



プロジェクターを用いて使用する例



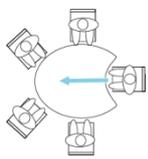
ホワイトボードを用いて2グループで使用する例

- ワークステーションとの間を仕切る壁については、半透明のものを採用しています。

ワークステーションよりもプライバシーを確保しつつ、互いの気配を少し感じることで、刺激をあたえるような空間をつくりだしています。

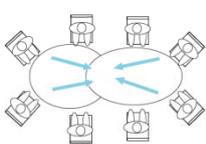
- 机の組み合わせを変更することによって、複数のコミュニケーションのスタイルを演出することができます。

#### リーダーシップ型のコミュニケーション



コミュニケーションのキーマンが空間の中心という一歩乗り出す位置にいるために、会議をリードするのに適した配置となります。

#### メンバーシップ型のコミュニケーション

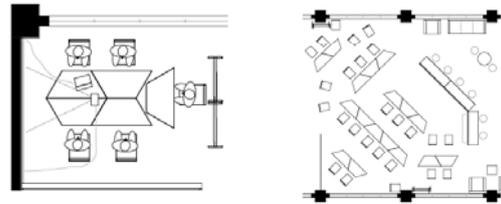


コミュニケーションの場を取り囲むような配置にすることにより、参加者が対等に参加することができます。

#### ワークステーション

- グループワークをするための場です。
- 机、椅子、ホワイトボード、本棚（ブックトラック）などの什器については、可動式のものを採用しています。

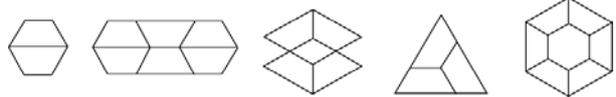
利用者が自分たちで目的や人数にあった環境を創ることを期待しています。多人数を対象とする口頭発表やイベントにも利用できる空間となっています。



ワークステーションにおけるレイアウトの例

- 机には、台形のテーブルを採用しています。

多様な人数や目的に対応することができ、柔軟性の高い空間をつくり出すことができます。



テーブルのレイアウトの例

#### ソーシャルスペース

- ゆったりとくつろぎながら本を読んだり、談話したりできる場です。
- 設置しているソファは、学内で不要になったソファをリサイクルしたものです。

#### コモンスペース

- 簡単な打ち合わせ、電子メールのチェック、スケジュールの確認など、短時間の作業のための利用に適した場です。

ハイチェア、ハイカウンターを使用しています。ワークステーションとは対照的に、カフェのような雰囲気になっています。

#### もっと知るためには…

- ◆ 加藤信哉編訳『ラーニング・commons基本論文集』2010.3.【附属図書館に所蔵あり】
- ◆ 柴山依子, 原郭二, 加藤彰一, 長澤多代, 小山憲司, 湖内夏夫, 谷口元「三重大学におけるラーニング・commonsの導入計画」  
[<http://hdl.handle.net/10076/11055>]
- ◆ 『名古屋大学附属図書館研究年報』Vol.7, 2009.3.31.(特集:ラーニング・commons)  
[[http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/report/f\\_report.html](http://libst.nul.nagoya-u.ac.jp/report/f_report.html)]
- ◆ 米澤誠「インフォメーション・commonsからラーニング・commonsへ」『カレント・アウェアネス』No.289, 2006.9.20.[<http://current.ndl.go.jp/ca1603>]